

【静電三法 ②物質変性法からみる「石・鉱石・金属のエネルギー」についての解釈】

【静電三法 ②物質変性法 物理学者：檜崎皐月】

物質の外部環境を静電的に変化させることにより、物質の諸性質を極めて省エネルギーで、目的に合うように変え、工業の原材料や製品の質の改善を図り、新しい工業生産技術を確立する。

神農本草経の漢方には、上薬、中薬、下薬として3種類に分かれていて、それぞれに効能効果があります。

上薬の1～15番まで、中薬の6番まで、下薬の5番までは全て石、鉱石金属です。上薬の説明文には、「気を増す、若返る」とあります。

そこで仮説を立てて、石、鉱石金属について調べていきました。これらは宇宙のエネルギーであり、そのエネルギーを発しているのです。それがヒントになり、エネルギーの元を見つけたのです。このエネルギーは「陰と陽のエネルギー」から成り立っています。

セラミックは土に含まれる成分によってエネルギーの発する高さが大きく違い、鉱物を多く含む土だとエネルギーの発する高さは高くなります。エネルギーの差を生む要因としてもう1つあり、焼く釜の温度によって左右されることがわかりました。

今までスリランカやラオスでもセラミックを焼いてきて、現地の農業支援に使用して成果を上げてきましたが、使用する土の成分が日本のものより質が良く、日本で焼いたセラミックより遥かに高いエネルギーを発しました。検査機関で調べたところ、スリランカやラオスの土には鉱物が50%近く含まれていました。

そして「焼く時の熱によって生まれたものに命が宿る」とし、これも仮説を立て調べてみました。石や鉱石はエネルギーを発するパワーが高いです。生きています。命がないと、エネルギーもなく、風化してボロボロになっていきます。

鉄も、「溶鉱炉の高い熱で命が宿る。エネルギーが高い。自然の中では時間が経つと錆びて風化が始まる。」と解釈します。

石は、「地球のマグマの高い熱から生まれて、命が宿る。強いエネルギーを持っている。石も命が無くなると風化してボロボロになる。」と解釈します。

御影石や大理石で実験してみましたが、石が一番高いエネルギーを発する要素を持つことがわかりました。そしてその石、鉱石金属のエネルギーをセラミックに移す技術を確立してきましたが、実用化にむけて今度は「石板」にエネルギーを移す技術を確立しました。